

# 難治緑内障に対するチューブシャント手術を施行しています

眼科学講座 教授 たにと 谷戸 まさき 正樹

緑内障は、視神経が徐々に変性・萎縮する進行性の疾患で、本邦の成人失明原因の第1位です。薬物や手術により眼圧を低く保つことで進行予防をする事ができます。チューブシャント手術は、特殊なドレナージデバイス(バルベルト緑内障インプラントやアーメド緑内障バルブ) (図1)を用いて、眼内に挿入したチューブを通して眼球赤道部に房水を誘導する事で眼圧下降を図る術式です。

手術には高い技術を要しますが、トラベクレクトミーなどの従来の緑内障手術で十分に眼圧が下がらない難治緑内障に対しても効果が期待できる点が最大の特徴です。本邦では2011年に認可されました。当院では2008年から他の施設に先駆けて施行しています。他県からも多数の患者紹介を受けており、図2のとおり多くの手術を施行しています。

緑内障による失明を1人でも減らすことを目標に日々診療を行っておりますので、引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。

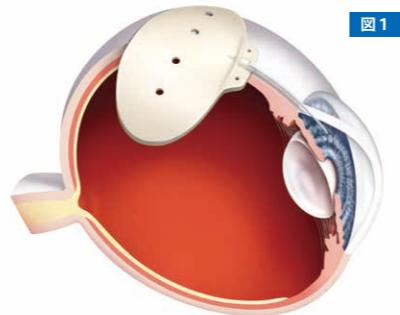
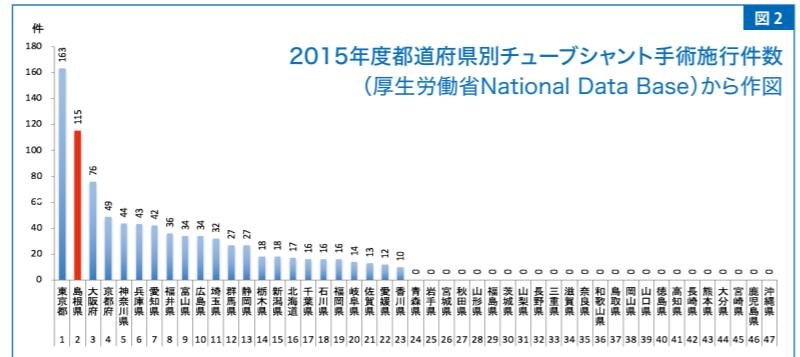


図1

バルベルト緑内障インプラントの模式図



## 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

12月15日～1月14日

対象者：一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
12/15(土) 9:30～11:30	平成30年度 島根県がんピアソーター相談会	外来中央診療棟3階 がん相談支援センター	一般	島根大学医学部附属病院
12/17(月) 18:15～19:45	日本専門医機構認定共通講習 第3回 感染対策研修会【必須研修】 A S T研修会「抗菌薬適正使用」 国際医療福祉大学薬学部・大学院薬学研究科 教授 西村 信弘 先生 講演「今でも大事な結核対策 -いまでもこれからも-」 結核予防会復十字病院 副院長 呼吸器・結核センター長 佐々木 結花 先生	島根大学医学部 臨床講義棟2階 臨床大講堂 臨床講義棟1階 臨床小講堂	本学	島根大学医学部附属病院 感染対策委員会
12/18(火) 18:30～19:30	平成30年度 第1回 臨床研究・統計セミナー 疫学研究とは -研究デザインと計画立案の基礎- 大阪大学大学院医学系研究科 社会医学講座 公衆衛生学 教授 磯 博康 先生	みらい棟4階ギャラクシー	医療 本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター
12/21(金) 15:30～	平成30年度 第3回 肝臓病教室 「年末年始に備えた肝臓病教室」 肝臓専門医 飛田 博史 助教	ゼブラ棟2階カンファレンス ルームだんだん	一般	島根大学医学部附属病院
12/21(金) 16:30～	平成30年度 第3回 家族支援講座 「ぴったんこ肝★肝～○×クイズで肝臓を学ぼう！」 肝疾患相談・支援センター看護師 森川 貴志子、影山 裕子、横木 陽子	ゼブラ棟2階カンファレンス ルームだんだん	一般	島根大学医学部附属病院
1/10(木) 18:00～20:00	「しまねジェネラリスト育成セミナー」 レクチャー「血液ガス分析」 飯塚病院 総合診療科 清田 雅智 先生	みらい棟4階ギャラクシー	医療 本学	島根大学医学部 卒後臨床研修センター
1/11(金) 7:30～9:00	「しまねジェネラリスト育成セミナー」 研修医モーニングセミナー 飯塚病院 総合診療科 清田 雅智 先生	みらい棟4階ギャラクシー	医療 本学	島根大学医学部 卒後臨床研修センター
1/13(日) 13:00～18:00	第5回 島根呼吸器診療スキルアップセミナー 「画像診断:肺癌を見逃さない」 島根大学医学部 呼吸器臨床腫瘍学 磯部 威 教授 「気管支鏡実技」 島根大学医学部 呼吸器臨床腫瘍学 莉本 典昭 准教授 島根大学医学部 呼吸器臨床腫瘍学 堀田 尚誠 助教 「喘息:呼吸機能検査・呼気NO」 島根大学医学部 呼吸器臨床腫瘍学 濱口 俊一 助教	外来中央診療棟2階 クリニックスキルアップセンター	医学部4年生 医学部5年生 初期研修医	日本呼吸器学会 中国・四国支部

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。

Shimane University Hospital  
島大病院ニュース

# NEWS

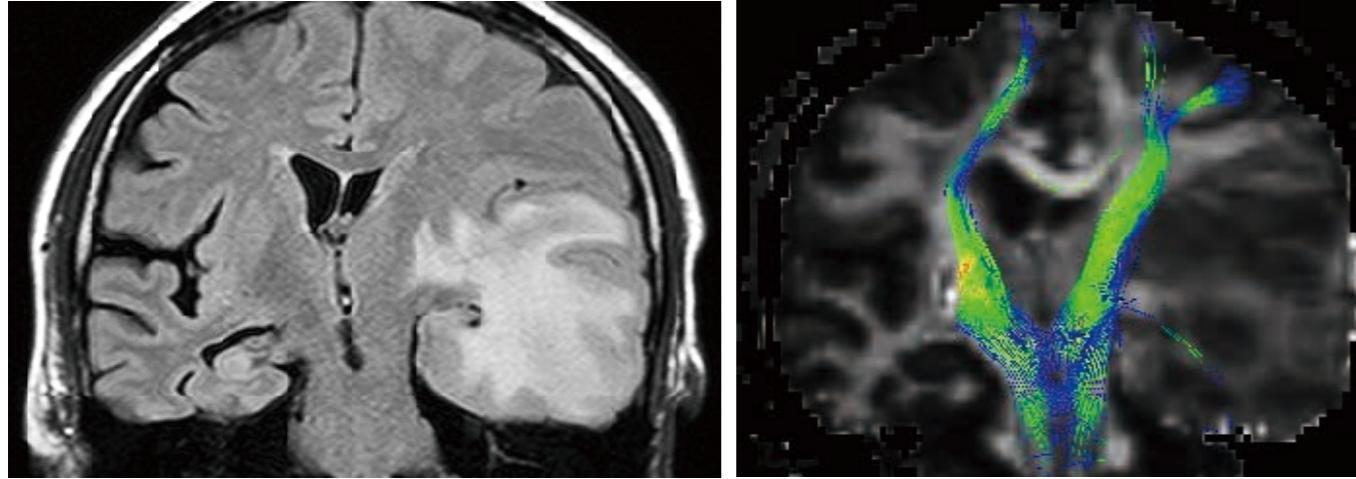
## CONTENTS

- ・覚醒下脳神経外科手術チームの発足  
～精密で安全な脳腫瘍手術を目指して～
- ・難治緑内障に対するチューブシャント手術を施行しています
- ・島根大学医学部における研修会・セミナー開催情報
- ・脳深部刺激療法(DBS)の機序と適応

# 覚醒下脳神経外科手術チームの発足 ～精密で安全な脳腫瘍手術を目指して～

脳神経外科学講座 助教 えだ ひろたけ  
江田 大武

神経膠腫と呼ばれる脳腫瘍は、正常脳に浸潤性に境界なく広がるタイプの腫瘍で、脳腫瘍全体のおよそ3分の1を占めています。神経膠腫の患者さんを救うには、正常脳との境界がはつきりしない腫瘍でありながらも、最大限の腫瘍摘出と、脳機能の温存を両立する手術が必要です。



浸潤性腫瘍(左)と病変周辺の運動神経線維(錐体路)(右)

覚醒下手術は、文字どおり手術の途中で患者さんの麻酔を覚まして行う手術です。麻酔から覚めて、意識のはつきりした状態の患者さんと会話をしながら手術を行うことで、言語や脳高次機能、そして細かな手指の巧緻運動機能も確認しながら手術を行うため、手術の精密性や安全性を向上させることができます。覚醒下手術は、高度な麻酔管理を行う麻酔科、術中を見守る看護師、脳機能を評価する臨床工学技士、言語聴覚士などで構成される手術チームで実施されます。

当院では、昨年から本手術に向けてのチーム作りを行い、本年7月から覚醒下手術を開始しました。島根大学病院の総合力を生かし、今後も精密で安全な脳神経外科医療を提供してまいります。



手術中には、タブレットに表示される絵などを答えてもらい(左)、また、紐を結ぶなどの手指の巧緻運動機能を確認しながら(右)手術が行われます。

# 脳深部刺激療法(DBS)の機序と適応

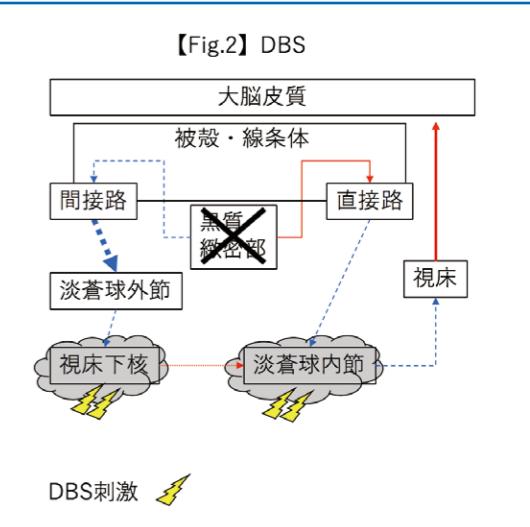
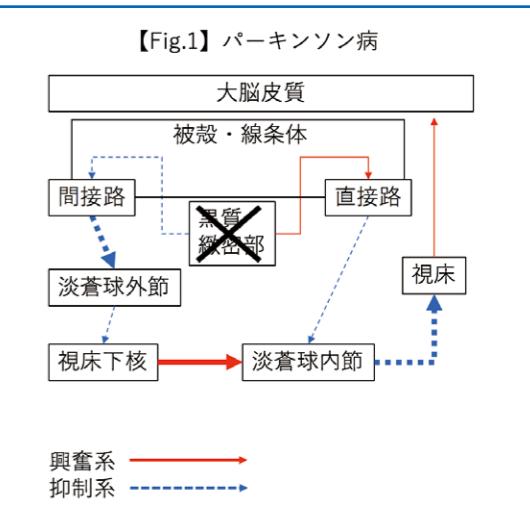
脳神経外科学講座 准教授 ながい ひでまさ  
永井 秀政

当院ではこれまでパーキンソン病のDBS治療を5例施行しました。難治性神経変性疾患であるパーキンソン病は、原因不明で進行性です。中脳黒質細胞が脱落して、振戦、無動、固縮、姿勢反射異常を主な症状とし、これらの運動症状に対してDBS治療が施行されます。

DBSの機序はアレキサンダーの仮説図(Fig.1、Fig.2)から説明されます。パーキンソン病では中脳黒質の脱落で、黒質からの被殻の興奮系(直接路)が減少し、被殻から淡蒼球内節への抑制系が低下します。さらに黒質から被殻の抑制系(間接路)が減少し、被殻から淡蒼球外節への抑制系が増加し淡蒼球外節が抑制され、淡蒼球外節から視床下核への抑制が減少するため、視床下核の活動が高まります。過活動な視床下核から淡蒼球内節へ刺激が増加します。以上より、淡蒼球内節では直接路の抑制が減り、間接路の刺激が増加して、淡蒼球内節の活動が高まります。その結果、淡蒼球内節から視床への抑制系が強くなつて、視床から大脳皮質への刺激が減少するために、運動障害が発生するとされています。DBSでは、視床下核(STN)または淡蒼球内節(GPi)を電気刺激して、過活動になった神経活動を機能的にブロックすることで、運動障害を調整するとされています。

パーキンソン病でのDBSの適応はパーキンソン病の確実な診断とL-ドーパの反応性があることが必要です。さらに、パーキンソン病の指定難病受給者証を受けておくことが必要で、難病指定の条件はヤール3度以上かつ生活機能障害度2度以上から申請が可能となり、難病指定でDBS治療の公費負担が実現されています。手術禁忌として高度の認知機能障害および自殺企図の可能性があるうつ病があげられます。また75歳以上の高齢者、脳萎縮が強い場合、水頭症や脳室拡大、ルート近辺の脳腫瘍、他の刺激発生装置が留置されているものおよび出血傾向のある場合には慎重適応となります。

適応判断が難しい場合もありますが、治療抵抗性の進行期パーキンソン病の患者さんではDBSを実施することを提案した方がよいと思われます。機能神経外科の外来への紹介をお待ちしております。



問合せ先 脳神経外科外来 TEL:0853-20-2386  
機能神経外科外来:毎週水曜日 午前



島大病院ニュース 2018年12月

# ご報告



## 北海道胆振東部地震における DMATロジスティックチーム派遣報告

島根大学医学部Acute Care Surgery講座

島根大学医学部附属病院高度外傷センター 日本DMAT隊員 統括DMAT DMATロジスティックチーム  
むろのい ともひろ  
室野井 智博

島根大学医学部附属病院では、災害医療・危機管理センター(DiMCOC: Disaster Medical Crisis Operations Center)を2018年に設立し、局地災害を含めたあらゆる災害に迅速に対応すべく組織を強化しています。

島根県西部地震、西日本豪雨災害においてもその機能を果たして参りましたが、2018年9月6日午前3時7分に北海道胆振地方を震源地とするマグニチュード6.7、最大震度7の北海道胆振東部地震発生におきましても、発災直後から域外災害モードに切り替え、災害医療派遣チーム(DMAT: Disaster Medical Assistant Team)を中心に情報収集を行いました。

厚生労働省DMAT事務局では、東日本大震災における災害の複雑化や長期化の反省から、DMATにおける災害対応の強化を図るべく、「DMATロジスティックチーム」が編成されています。ロジスティックとは、軍事用語で兵站(へいたん)を意味し、衛星通信など情報ツールを駆使し、DMAT本部運営を強化するための専門のチームです。今回は、発災直後より全国から30名が選抜され、私はロジスティックチームの一員として北海道へ島根県から唯一派遣となりました。発災翌日の9月7日から釧路市立病院のDMAT活動拠点本部業務を行い、任務完了の後に9日から12日に、震源地の厚真町に入り、東胆振東部3町医療救護保健調整本部設立および運営を行いました。被災地の最前线で、避難所の改善や医療資機材の物流調整、地域への医療・保険業務の補助などを行ってきましたが、課題は山積しています。当院は今後未曾有の被害をもたらすとされる南海トラフ地震において、病院機能が維持された最前線の病院となる可能性が高いとされています。過去の災害の課題を糧に今後も災害対応を強化して参ります。



※写真一番左が、室野井医師



島大病院ニュース 2018年12月

# ご報告

## BCP改訂第4版に基づく 院内災害訓練の実施報告について

災害医療・危機管理センター(DiMCOC) センター長 わたなべ ひろあき  
渡部 広明

近年の度重なる大規模災害に対して病院機能の維持と医療提供の継続は重要な課題となっております。近々発生が想定されている南海トラフ地震においては、被災エリアがこれまでになく広域であることから支援の到着が見込めない状況を想定し、各災害拠点病院は独自に診療継続可能な体制をBCP(事業継続計画)に盛り込み、災害訓練を実施することが求められております。当院は本年9月にBCP改訂第4版を策定し、10月には改訂第3版の院内災害対策マニュアルを作成いたしました。このBCPに基づいた院内災害体制の検証と訓練を目的に、11月17日、院内災害訓練を実施いたしました。

8時30分、出雲沖を震源とする断層でマグニチュード7、出雲市震度6強の地震が発生したとの想定で訓練を開始しました。この度改訂したBCPでは、災害医療・危機管理センター(DiMCOC)の位置づけを明確とし、発災直後の院内の混乱と指揮権の空白をなくすため、DiMCOC災害初動本部を設置し、迅速な災害対策本部設置に向けての体制変更を行いました。発災から5分でDiMCOC災害初動本部が立ち上がり、院内を第1種災害モード(コードレッド)へ切り替えるとともに15分以内に災害対策本部が速やかに設置されました。災害対策本部では病院長を本部長とする災害対策会議が招集され、組織構築、初動情報収集が行われました。さらに周辺医療機関との連携強化を目的に、島根県立中央病院との衛星通信訓練も同時に実施されました。また、災害傷病者の来院を想定し、救命救急センター前にトリアージセンターを設置して、職員によるトリアージや初期治療、搬送の訓練を実施いたしました。

今回の訓練では速やかな本部構築と情報収集が行われ、BCPに規定された体制の実効性が検証されました。本院では大規模災害の発生に備え、引き続き「災害に強い大学病院」を目指して体制整備を進めて参ります。





島大病院ニュース 2018年12月

# お知らせ



## 快適な通院・通勤環境を目指して ～駐車場の整備と運用開始について～

会計課施設管理室

島根大学医学部ではキャンパス全体で年次的な駐車場の整備計画を立案し、職員から徴収した駐車料金を基に平成27年度より順次職員用駐車場の整備を行っています。

平成30年度は当初予定していた基礎研究棟北側の駐車場に加え、平成31年度に整備予定であった実習棟北側の範囲を前倒しして整備を行いました。これまで碎石敷きであった駐車場をアスファルト舗装とし、一部拡幅する事で120台から132台へ12台分の増設整備を実施し、12月より運用を開始しております。

現在、キャンパス全体の駐車場は患者さん専用として608台、教職員専用として1,023台、教職員・学生・業者等の共用駐車場を652台整備しており、公共交通機関が少ない地域から来院される患者さんや教職員、通勤時間帯が不規則な病院職員にとっては重要な施設となっています。

今後もキャンパス全体の利便性を考慮した駐車場整備の実施や検討を行い、来院される皆さんや教職員がお互いに気持ちよく過ごせるよう、より快適な環境整備を行ってまいります。



島大病院ニュース 2018年12月

# お知らせ



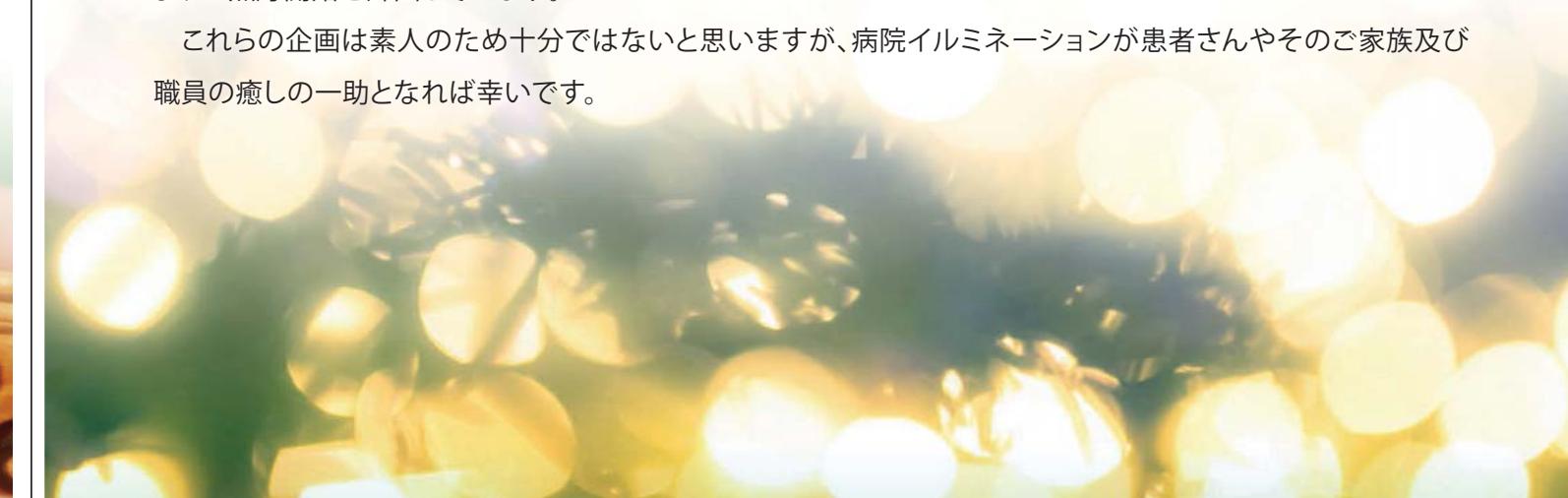
## 病院玄関前ロータリーにツリー点灯！

当院のイルミネーションは、これまで医学部学生有志により飾り付けされてきましたが、平成29年より大幅に刷新し、病棟南側庭園及び病院玄関前ロータリーに新たな飾り付けを施したところです。

今年の病院玄関前ロータリーのイルミネーションは、枝垂れ桜を利用したこれまでの飾り付けから、高さ約9mの水銀灯支柱を利用した巨大ツリーに見立て、病院のロゴマークである「白うさぎ」の白と、島根大学病院の「ネオンサイン」の青を配色し、光の反射する防火用水池とのコラボレーションにより、11月1日(木)から一年中点灯することとしました。点灯時間は、日没を考慮の上開始時間を調整しつつ、午後11時までとし、季節により点灯パターンを適宜変更することとしています。

また、今年の病棟南側庭園のイルミネーションは、昨年の「出雲ドーム：かまくら」を改め、新たな演出で12月よりの点灯開始を計画しています。

これらの企画は素人のため十分ではないと思いますが、病院イルミネーションが患者さんやそのご家族及び職員の癒しの一助となれば幸いです。





島大病院ニュース 2018年12月

# お知らせ



## 毎月開催しています♪ ボランティアコンサート♪

当院では、患者さんやご家族の皆さんに心和むひとときを過ごしていただけます。定期的に「病院ボランティアコンサート」を実施しています。

以前は月1回の開催でしたが、応募者が年々増え、最近では月に2回のイベントとなっています。そこで、今年行われたそのバラエティー豊かなコンサートをご紹介します。

( )は団体名

- **日本舞踊** (出雲邦舞会)
- **合唱** (アルページュ)
- **吹奏楽** (出雲交響吹奏楽団-縁-)
- **エレクトーン・ピアノ** (島根大学エレクトーン&ピアノサークルCOLORS)
- **ハーモニカ** (キラキラ雲南文化カレッジ ドリームクラブ ハーモニカ教室) (出雲ハーモニカ同好会)
- **箏、三味線、尺八の演奏** (島根大学邦楽部)
- **雅楽** (「こころ音」雅楽会)
- **管弦楽器演奏** (島根大学フローラ室内楽団)
- **ヴァイオリン、フルート、ファゴットの演奏** (出雲楽友協会)
- **二胡の演奏** (二胡ルビーズ)
- **創作朗読劇** (創作朗読楽団「Repos」)

今後の予定としては、12月に毎年恒例のクリスマスコンサートがあります。

どの団体も、プログラムや内容を毎回創意工夫され、会場を盛り上げて下さいます。患者さんやご家族の皆さんからも好評で、「入院中にこのような催しがあり、とても嬉しいです。」「素晴らしい音楽に癒されました。」などの感想もいただいています。

今後も、患者さんやご家族の皆さんに病院で過ごす時間を少しでも楽しんでいただけるよう、スタッフ一同、心を込めて取り組んでいきたいと思います。

お知らせ

島大病院ニュース

平成30年12月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2018年12月

# ご報告

## 第14回 患者さんの視点に立った医療を考える委員会

平成30年10月26日(金)に「第14回 患者さんの視点に立った医療を考える委員会」を開催しました。この会議は、外部委員6名の方を含む11名の委員で開催しました。冒頭、病院長より、「本委員会での意見が病院の経営等の改善に役立っており、忌憚のない意見をいただきたい」との挨拶がありました。

その後、議事に入り、外部委員の方から子どもの日のイベントで病院にこいのぼりを掲揚したことは、良い取り組みであるとの意見があり、病院長から今後も季節に合わせた様々なイベントを計画している旨の説明がありました。また、患者満足度向上WG議事要旨に基づき、病棟の洗濯機・乾燥機用の両替機の設置、患者図書室「ふらっと」のパソコンの更新、放射線部での検査着を一人一着としたこと、立体駐車場の定期的な清掃及び駐車場周辺の樹木の伐採など今回議題となった案件についての説明がありました。その後、患者さんの声については、外部委員の方から、患者さんの意見に対する病院側の回答について、納得のできる内容であり、今後も継続してほしい旨の意見がありました。

病院長より、「今後も皆さんからのご意見により、本院をより一層地域の皆様に愛される病院にしていきたいと思います。」との思いが語されました。



平成30年12月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063

◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース





島大病院ニュース 2018年12月

# ご報告



## Lund大学パトリック ミドリヨフ教授の本学訪問

医学部地域医療政策学講座 教授 ひろせ まさひろ 廣瀬 昌博

わが国では総合診療医のコンセプトが定着しておらず、臨床研究力も低下していることから、総合診療医の養成と臨床研究体制の再構築が急務です。そこで、昨年12月、ファイザーヘルスリサーチ振興財団に「医療提供、総合診療医育成および臨床研究体制に関する日本とスウェーデンの比較研究」を申請し、第26回国際共同研究として採択されました。その一環でLund大学のパトリック ミドリヨフ教授が10月15日から24日にかけ来雲されました。

初日は、雲南省立病院で太田龍一医師による臨床研究に関するプレゼンテーションおよび情報交換、2日目は医学部並河徹教授の研究グループのホストにより、地域包括ケアにおける予防事業である健診活動等を視察し、3日目(写真)は、国際共同研究の可能性について、薬理学講座和田孝一郎教授、内分泌代謝内科金沢一平講師、脳神経内科小野田慶一講師ならびに安部哲史助教との間での情報交換後、講演会を開催しました。4日目は仁寿会が提供する医療介護施設等の視察後、医療スタッフと情報交換をしました。

その後、神戸に移動し、5日目は芳川浩男教授の随行で兵庫医科大学さやま医療センター視察後、夕刻から岡山雅信教授のもと神戸大学医学部附属病院で講演会を開催しました。最終の6日目は神戸大学地域医療活性化センターで医学部3年生による早期臨床実習報告会に参加することでわが国の医療介護提供と医学教育の一端に触れて戴きました。

初来日でしかも過密な日程でのミドリヨフ教授ではありましたが、この間常にこやかに真摯な態度で受け応えておられる姿はスウェーデンの体制ばかりでなく、総合診療医としてのるべき姿を見せて戴いたように感じました。

さいごに今回のミドリヨフ教授の来雲に際し、各関連施設等の皆さんには大変お世話になりました。紙面をお借りして感謝申し上げます。有難うございました。



島大病院ニュース 2018年12月

# ご報告

## 地域医療と先進医療の融合をめざした 未来型がん医療を進めています

腫瘍・血液内科 診療科長

すずみや じゅんじ  
鈴宮 淳司

### ① 脾がんの治療に“梅エキス(MK615)”の臨床研究を実施しています。

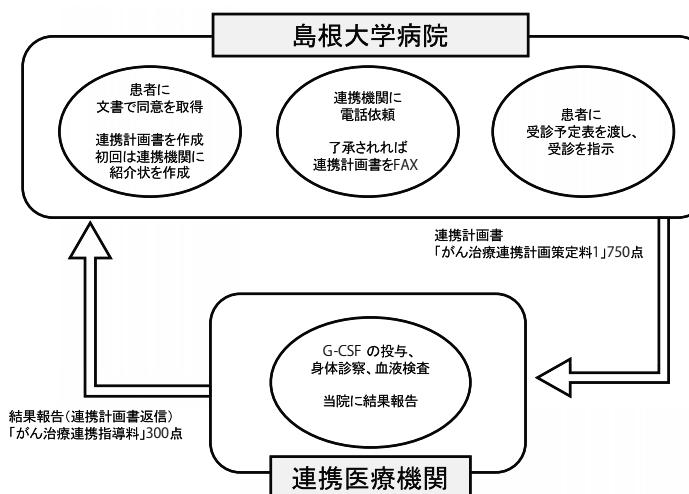
古来より梅エキスは様々な病気に効くとされます。難治性脾がんに島根大学の基礎研究で梅エキスが効果を示し、抗がん薬と相性が良いことが確認され、抗がん薬と併用で患者さんへの安全性を確認、2018年米国国際学会で報告しました。より高い効果の抗がん薬と併用による安全性・有効性を検討しています。

### ② Gパスでつなぐ地域がん治療を推進しています。

抗がん薬治療後に生じる好中球減少症予防に有効なG-CSF製剤は、抗がん薬と同時使用は禁忌なので、地域の先生方とクリニックパス(Gパス)で使用しています。交通事情の悪い島根県の患者さんには優れた仕組みで、全国的にも注目されています。2018年7月までに105名の患者さんに、Gパスを利用していただき、隠岐から益田までの県全域にわたって62の医療機関(病院13、診療所49)にご協力をいただいています。

### ③ 間葉系幹細胞を用いた移植片対宿主病(GVHD)治療に成功しました。

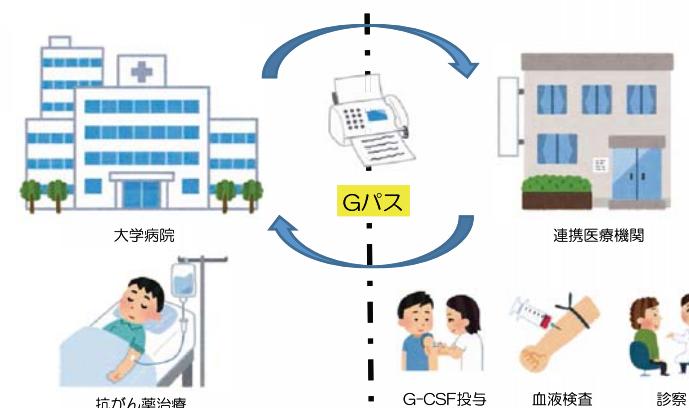
骨髄移植の合併症であるGVHDの治療に“間葉系幹細胞”の輸注が有効で保険承認されています。いち早く、輸血部と共同で体制を作り、他院から紹介の難治性GVHD患者の治療に成功しました。



#### Gパスの手順概略図

Gパスの実際の運用を示した図です。島根大学病院と連携医療機関が一緒になって地域での高度ながん治療を可能にしています。詳細は、当院医療サービス課へお問い合わせください。

問合せ先 医療サービス課 TEL: 0853-20-2067



#### Gパスってどんなもの

抗がん薬治療を受けられた患者さんが、地域連携パスに登録された自宅近くのかかりつけ医で、診察、検査され好中球を増やす薬剤(G-CSF)の注射をしていただきます。これにより、大学病院まで来られなくても、G-CSF製剤による治療が可能になります。このように、がん診療連携クリニックパスを使って、大学病院と地域の先生方が一緒になって、高度な抗がん薬治療も安全に実施できます。地域全体で、がん患者さんの診療を行っています。





島大病院ニュース 2018年12月

# ご報告

## 肝胆膵外科高度技能専門医修練施設A を取得しました

肝胆膵外科 講師 川畠 康成  
かわばた やすなり

肝臓・膵臓・胆道の高難度手術(肝葉切除・膵頭十二指腸切除・血管合併切除など)を50件以上/年×5年で取得できる施設基準を山陰では初めて取得しました(図1)。

また、腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術、腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術および腹腔鏡下膵腫瘍核出術の承認施設も今年度取得しています。50件以上/年の膵切除の厳しい条件をクリアしての承認です。

これも、肝胆膵外科専門スタッフの充実と、院内各診療科(消化器内科、放射線科、病理診断科、内分泌代謝内科、放射線治療科、腫瘍・血液内科、ICU、栄養部など)との連携協力の賜物と、この場を借りて御礼申し上げます。

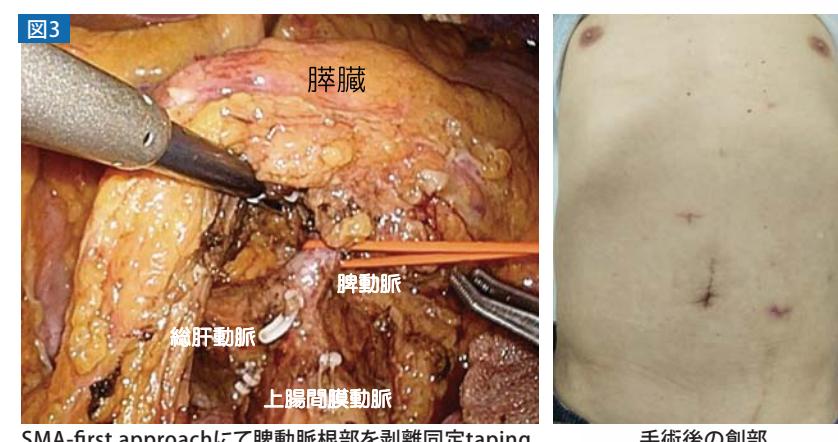
肝胆膵外科の専門分野は腫瘍外科と内視鏡外科です。

新しい試みとしては、肝予備能不良な肝臓悪性疾患(HCC,CCC)や肝門部胆管癌に対して段階的肝切除術のための肝臓分割と門脈結紮・塞栓術(アルプス手術, ALPPS:Associating Liver Partition and Portal vein embolization for Staged hepatectomy)を院内医療安全委員会承認のもとで施行しています(図2)。

内視鏡手術分野でも、保険収載となつた膵癌に対する腹腔鏡下尾側膵切除術(K-702-2)を、当科オリジナルのSMA-first approachで行う腹腔鏡下膵体尾部切除(laparoscopic radical antegrade modular pancreatectomy with SMA-first approach:Lap-aRAMPs)を開始しています(図3)。

肝胆膵外科の詳細はホームページを閲覧ください。

<https://www.shimane-u-dgs.jp/>



島大病院ニュース 2018年12月

# お知らせ

平成30年度「しまねジェネラリスト育成セミナー」

飯塚病院 総合診療科

## 清田雅智先生を招いて

この度、飯塚病院総合診療科 清田雅智先生をお招きして、第2回目の「しまねジェネラリスト育成セミナー」にてレクチャーを行ないます。多数のご参加と活発な討論をお願い致します。

平成31年

1月10日(木)

18:00~20:00

みらい棟4階「ギャラクシー」

・レクチャー

「血液ガス分析」



みらい棟玄関

※ 1月10日のセミナーは 島根県医師会指定の生涯教育講座

2 単位 です。

平成31年

1月11(金)

7:30~9:00

みらい棟4階「ギャラクシー」

・研修医モーニングセミナー

『研修医が「今知りたい」診断能力向上のためのTips Part2』

主催:島根大学医学部附属病院 / 島根大学医学部医師会

問合せ先 卒後臨床研修センター 0853-20-2714

ご報告

島大病院ニュース

平成30年12月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



お知らせ

島大病院ニュース

平成30年12月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2018年12月

# ご報告

## フレキシブル地域医療実習報告会 (学生企画型)を行いました

地域医療支援学講座 準教授 さの ちあき  
佐野 千晶

地域医療支援学講座では、医学生からの病院実習希望をスタッフが聞き、一緒に計画を進めていくといった、いわゆる「フレキシブル実習」の支援を行っています。参加した医学生は「臨床推論をされている外来を見てみたい。」、「アンケート調査の結果を学会で発表したい。」、「救急の現場に参加してみたい。」など、様々な実習希望があります。

今回のフレキシブル地域医療実習報告会は、10月2日に8名の学生の参加でみらい棟ラウンジで行いました。雲南市立病院、松ヶ丘病院での地域医療実習ならびに学会に初めて参加し発表したことからの学びについての報告がありました。報告と併せて、島根の医療の課題についてディスカッションを行いました。また、地域医療研究会が浜田市弥栄町において「地域で生涯自分らしく暮らすための住民調査」を行い、それをまとめたポスター発表が優秀ポスター賞に選ばれたという嬉しい報告も加わりました。

意欲のある医学生にとって、医療実習や学会参加を通じてさまざまな方と触れ合うことは、きっと大きな財産になることだと思います。また、将来島根で医師として頑張りたいと思うきっかけにも繋がってくると思っています。毎年、この地域医療実習には、多数の先生方、医療施設にご協力をいただきおり、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。



▲報告会の様子



浜田市弥栄町での  
「自分らしく最期を迎えるため」の寸劇



島大病院ニュース 2018年12月

# お知らせ



## 「塩治地区文化祭」に参加しました

看護部 かんだ 神田 まりこ 真理子

11月4日(日)塩治コミュニティセンター文化祭に参加しました。

例年行っている男性看護師による血圧測定、健康相談、健康体操の他に、今年度は初めての試みとしておむつフィッターの資格を持っている看護師によるおむつフィッティングをそれぞれのブースに分かれて活動しました。当日は晴天にも恵まれて、昨年よりも多い約130名の皆さんに参加をしていただき、普段から健康を気にされている方も多くとても賑わいました。

健康問題に関する質問や介護問題に関する相談など多岐にわたるお話しを伺うことができました。おむつフィッティングのブースでは、「家で介護を行っている。良い方法を教えてもらってよかったです。」「おむつを買いに行っても説明してくれる人がいない。誰に相談してよいか分からなかったが、今回、購入や捨てること、選ぶ基準等教えてもらって大変心強かった。」「おむつのひだを立てるだけで漏れがずいぶん違うことが分かった。」等の感想がありました。

普段は病院内の活動が多いため、私たちにとっては地域で活動することはとても貴重な経験となりました。当院は、「地域医療と先進医療が調和する大学病院」の理念を掲げ、地域社会から求められる大学病院の役割機能を果たすことも大きな方針として位置づけられています。今後も地域とのネットワークを図っていくよう活動していきます。

